

北九州市地域コミュニティビジョン検討会議について (進捗報告)

1. 第2回会議(令和7年5月28日)の内容

【構成員の主な意見】

○街中や郊外など地域によって特性が異なるため、コミュニティのあり方を一律に決めるのは困難。その一方で、どこまでを共通して求めていくのか、という議論も必要ではないか。

○新しい取組を進めるには、町内会長等のリーダーシップも重要だが、住民へのアンケートなどでニーズをしっかりと把握して発想すると受け入れられやすい。

○「今の若い人が地域に参加するには何が必要か」と主体を置き換えて考えたり、「地域で稼ぐ」といったビジネスの発想も加えたりするなど、持続可能性を見据えた発想の転換が重要。

○若い人にいきなり「町内会参加」はハードル高い。例えば「活動に参加すればアプリでクーポンが配布され、地域の角打ちに行ける」のような目に見えるメリットがあると参加しやすい。

○将来、安心して暮らすために地域コミュニティに必要な機能は何か。(安全・安心、食を通じた交流など「幸福を感じるコミュニケーション」「幸福度」が大事ではないか)

※会議詳細は、市ホームページ等で、議事録・動画を公開しています。
ご覧ください。

2. 今後の予定

第3回会議 令和7年7月16日開催予定

3. 参考資料

第2回会議説明資料「第1回検討会議の振り返り」

【参考資料】

Kitakyushu
Action!

動かせ、未来。北九州市

第一回検討会議の振り返り

第一回地域コミュニティビジョン検討会議 振り返り

日時:令和7年4月21日(月) 18:30-20:20

**Kitakyushu
Action!**
動かせ、未来。北九州市



内容:「第一回検討会議」説明、ゲストスピーカー講話(株式会社KITABA・酒本氏)、意見交換

【事務局説明】

- ・現状(自治会加入率の低下、地域課題の拡大)
- ・課題(時代の変化に対応できるコミュニティとは=多様な主体による全世代参加型地域コミュニティ形成)
- ・仮説(バックキャスト思考、3つの視点(イノベーション・関係者の接続・好循環)、市民マインド)

【ゲストスピーカー提案】

- ・何か変わらなければいけないが、「どうしたらいいかわからない」「決められない」が自治会独自の課題
- ・地域コミュニティマネジメントには中立的立場でのコーディネータが必要。誰が担うのか、が課題
- ・サードプレイス(自宅・職場以外のリラックスできる居場所)の提供という視点は今後大事

意見交換：地域コミュニティビジョン策定に向けた考え方(3つの仮説)

○望ましい未来像を描き、そこから逆算(バックキャスト思考)

○将来像を描く上での3つの視点(①現状からのイノベーション、②関係者の垣根を超えて接続、③好循環を生み出す)

○地域コミュニティビジョンの基盤となる市民マインド(市民性・気質)を踏まえた議論

・これからの地域コミュニティには、企業やNPOの協力が必要で、それを実現するために何が必要なのかをその地域で考えていくほうがよい。

・自治会・町内会の運営に市民センターがどこまでかわるか、ルールを整理してセンター町内会ができないか。

・大学生に所属団体の活動を紹介したところ、「自分も参加してみたいが情報がない」などの意見があった。外部に活動の見える化をする必要があると感じた。

・地域コミュニティの組織に入っている人は、一軒家に住んでいる方が多いと思う。マンションで一人暮らしでは情報が全くないし、まちづくりに接する機会もないと感じる。

・これからコミュニティをつくっていく人は誰なのか、地域で議論する時に若い人が抜け落ちていないか。若い人を主体にして、決裁権も与えられないか。

・子育て世代がどう考えているのかをつかんだ上で地域コミュニティの未来像を議論したほうが良い。PTAを活用して幅広く意見を集めてはどうか。

・アクティブなシニアの豊かな社会経験をまちづくりに生かしていただく目的でゴールドシニア認定をしてはどうか。

・若い人は若い人で考えて、動いていて、つながりを求めているわけではないわけではない。世代間ギャップを感じている。

・将来像があったほうが若い人も入りやすい。地域コミュニティが若い人のノウハウを活用できる場となれば、地域の役割を担う若い人も出てくる。

多様な主体の参加

全世代参加

意見交換：地域コミュニティビジョン策定に向けた考え方(3つの仮説)

○望ましい未来像を描き、そこから逆算(バックキャスト思考)

○将来像を描く上での3つの視点(①現状からのイノベーション、②関係者の垣根を超えて接続、③好循環を生み出す)

○地域コミュニティビジョンの基盤となる市民マインド(市民性・気質)を踏まえた議論

・コミュニティの組織は、抜本的な改革が必要で、戦術ではなく概念ごと変える必要があると思っている。

・バックキャスト型の思考で、どれぐらいの地域が未来像を描きながら活動しているのか、今後はこの思考が必要であることを改めて感じた。

・今、自治会未加入が非常に多くなっている。なぜ未加入になるのかの部分重要だと思っている。現状から解決策が出てくるので次々に実践すれば、それが未来像に繋がると考える。

・子育て、福祉、空き家、地域交通、働き方など、住民に近い地域コミュニティが課題を受けとめざるを得ない状況にある。解決のすべてを地域コミュニティに求めることはできない。地域コミュニティは何をどこまで担うのか、「それは本当に地域コミュニティの課題なのか」を整理することからスタートする必要があると感じる。

・地域コミュニティを考える際に市民性や気質は大事だが、マインドの部分だけではなく、北九州市が築いてきた都市文化やその構造も大事。

・以前に地域コミュニティが担っていたことを将来にすべて維持できない状況である。地域コミュニティにどの機能は絶対に残すべきかという議論は必要。

サステナブル(変化)

地域コミュニティ